一般財団法人日本不動産研究㉙

地域資源を生かす

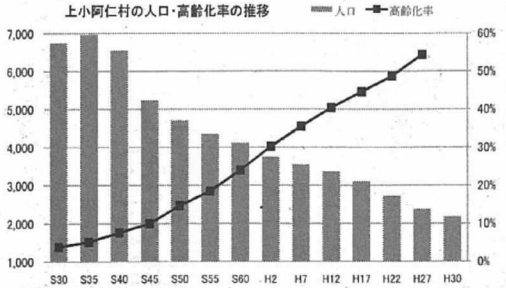
～まちづくりからインバウンドまで

上小阿仁村＝手作りの芸術祭

超高齢化の村が美術空間へ

里山から現代アートを発信

上小阿仁（かみこあに）村は、秋田県のほぼ中央部、北秋田郡の南西部に位置する南北に長い山あいの村である。人口は、60（昭和35）年の6972人をピークにして徐々に減少し、18（平成30）年7月時点では2179人と約68・7％減少している。



昭和35年から平成27年は総務省の「国勢調査」（各年10月時点）、平成30年は秋田県の「平成30年度老人月間関係資料」（7月時点）をもとに作成

廃校舎を活用した「かみこあにプロジェクト」

一方で、高齢化率（65歳以上が占める人口割合）は徐々に上昇し、18（平成30）年7月時点の高齢化率は約54・4％となった。全国的に高齢化率が最も高い秋田県の中でも上小阿仁村が群を抜いて高く、2人に1人以上が65歳以上となる、超高齢化社会に突入している。

棚田と作品が融合

こうした現状に立ち向かうため、上小阿仁村では、地域活性化に向けた取り組みとして、現代アートを利用して里山の魅力を発信する「かみこあにプロジェクト」を12（平成24）年から開催している。

同プロジェクトは、上小阿仁村が秋田公立美術大学などと協力し、毎年8、9月にかけて開催する手作りの芸術祭である。地域そのものが里山美術空間であるというコンセプトをもとにしており、開催期間中は絵画や彫刻などのアート作品が、廃校となった校舎ではその雰囲気を生かして展示され、外縁に位置する集落では棚田と作品が融合した風景が芸術作品となっている。

同プロジェクトの知名度は高いとは言えないものの、新しい価値観の創造やメッセージ性が強く、里山の魅力を発信することや多世代間の交流拡大につながっている。

アートを利用した地域活性化への取り組みは全国各地で行われているが、里山という空間を利活用して他地域と差別化を図り、今後も規模を広げて展開していくことを期待したい。

また、年間を通して、地域の魅力を発信するため、宿泊施設や交流拠点などの機能を兼ね備えた集住型宿泊交流施設「コアニティー」が18（平成30）年4月に開館した。この施設は、単身者や若者向けの集住型アパートエリア、農林業体験を伴う文化合宿や学生団体のスポーツ合宿などとして利用する短期滞在エリア、多世代間の地域住民の交流を図る交流エリアの3つの機能を有した複合施設で、交流人口を拡大させながら地域コミュニティの創造を図っていくことを目的としている。

今年4月に開館した集住型宿泊交流拠点施設「コアニティー」

ほおずきを産地化

最後にこのコーナーでも地域の魅力を掲げたい。

上小阿仁村の特産品として挙げられるのは、「べいなす」「ズッキーニ」「食用ほおずき」である。特に「食用ほおずき」は、日本では馴染みのない食べ物をいち早く産地化したもので、観賞用のオレンジ色のほおずきとは種類が異なる。多くのビタミンを含んだヘルシーな食材であり、熟した実は黄金のような色合いである。

道の駅「かみこあに」で購入したが、ほのかな甘酸っぱさがあり、独特の香りと味が特徴的だった。ぜひ一度、上小阿仁村産の「食用ほおずき」をご賞味していただきたい。

（秋田支所、不動産鑑定士・平野太郎）

地域の特産品「食用ほおずき」